畑作技術情報

発行　令和５年７月14日
第６号
たいせつ農業協同組合
営農部　農産販売課
本所　営農センター　57-2357
支所　営農センター　87-4111

秋播き小麦の収穫について

本年の秋播き小麦の生育は、平年並みの生育となっております。７月 10 日に秋播き小麦作付ほ場よりサンプルを採取し、水分測定による刈取り適期調査を実施したところ、生育の早いほ場では７月 16 日頃から収穫適期（子実水分 23%以下）になる見込みとなっております。ただし、その後降雨により子実水分が変動していると思いますので各営農センター、またはライスセンターに水分計を設置しておりますので、こまめに水分を測って刈取り適期を見極めましょう。

≪各ほ場の測定結果≫

水分測定ほ場	穂サンプル		子実水分	成熟期	刈取り適期
	生重量	乾燥重量			
2線15号付近	18.5	12.5	32.432432	7月5日	7月17日
6線17号付近	16.8	11.7	30.357143	7月4日	7月16日
11線10号付近	16.3	11.2	31.288344	7月5日	7月17日
10線21号付近	17.0	11.2	34.117647	7月7日	7月18日
16線16号付近	15.2	10.0	34.210526	7月7日	7月18日
13線19号付近	18.2	11.8	35.164835	7月7日	7月19日

≪子実水分の判定方法≫

	子実水分	爪による判定	歯による判定
黄熟中期	35%	指先で押しつぶすことはできないが、爪では容易にちぎることができる	前歯で抵抗なく噛み切れる
黄熟後期	30%	爪でちぎることはできるが、若干抵抗を感じる	前歯で噛み切ることはできるが、若干抵抗を感じる

※上記判定方法は春播き小麦も共通となります。

収穫のポイント！

- 成熟期（子実水分 40%）になると一日当たりの水分減少率は大きくなり、高温・晴天時には 5～6%近く低下する場合もあります。ほ場の様子や熟度、水分値をこまめに確認しましょう。
- 倒伏や赤かび病が発生したほ場では品質の低下が懸念されますので、別刈りや別乾燥を実施し、他の小麦と混ぜないようにしましょう。
- 収穫作業実施前に畦畔の草刈りを実施しましょう。

農作業事故・熱中症に十分注意しましょう！

- １人での作業時は行き先を伝えて、連絡が取れるよう携帯電話を持ちましょう。
- 休息を取りながらこまめに水分補給し、熱中症予防をしましょう。